

小須戸小学校だより

NO. 1

令和3年5月11日(火) 発行



『愛』と『信頼』に裏付けられた教育の実践に向けて

校長 中林 浩子

先般予定していた「一日オープンスクール」は、コロナ禍第4波到来により、残念ながら延期とさせていただきます。参観を楽しみにしておられた方々も多くおられたことと思いますが、保護者の皆さまの温かなご理解に感謝申し上げます。

今年度の学校経営の基本理念は、昨年度に引き続き、「『愛』と『信頼』に裏付けられた教育の実践」です。子どもには、「教育愛」を持って臨み、児童、保護者、地域から「信頼」を獲得しなければ、教育は機能しません。子どもと接すれば接するほど、保護者と接すれば接するほど、教職員同士も接すれば接するほど、いっそう信頼関係が深まっていく、そんな人間味があって魅力のある、市民感覚を持ち合わせた教職員集団を目指します。

4月1日、今年度の学校経営方針の中で私は、教職員全員に次のような話をしました。

「人は、時として自分の視点から物事を見てしまい、知らず知らずのうちに視野が狭くなってしまうことがあります。小学生という、まだ、自我が未成熟な発達途上の子どもを前にすると、特にそうです。幼い子どもであっても、人格があり、その存在は、かけがえのないものです。年齢を問わず、立場によらず、子どもに対しても保護者・地域に対しても、そして、我々教職員同士でも、その一人ひとりの存在と人格に対して敬意を払うことを忘れずに、相互に理解し合い、尊重し合うことを大切にしていきましょう。」と。私は、これが『愛』と『信頼』の礎であると考えています。

さて、令和3年度の教育活動がスタートして、あっという間に1か月が過ぎてしまいました。4月7日には、新入生42名を迎え、今年度の小須戸小学校は、全12学級、全校児童242名となりました。教職員数は、昨年度末に10名を見送り、今年度、新たに15名を迎え、計31名の職員集団となりました。小須戸小学校にとっては、まさに大異動でした。

進級・進学とは、これまでの慣れ親しんだ日常に別れを告げ、それぞれが、新たな日常を創り出していく営みでもあります。それは、決して容易なことではありません。なぜなら、どの子どもも、経験したことのない新しい毎日を日々、ぶっつけ本番で生きているからです。

そして、新しい仲間との出会いや新しい担任との出会いにおいても、また、同じことが言えます。「出会い」は、時に、不安や緊張を伴います。そして、これは、子どもだけでなく、大人である私たちも同様です。これは、お互いをよく知らないことからくる不安定な感情とも言えるでしょう。今年度、教職員の大異動があった小須戸小学校ではなおさらです。このようなことから、小須戸小学校は、互いに分かり合うための「相互理解」を大切にしていきます。

お子さんが、新しい生活、新しい出会いに不安や緊張を感じる時は、お子さんの気持ちに寄り添いながら、その一方で、相手の思いや気持ちを分かろうとする「相互理解」に向かう力を応援していただけたら幸いです。また、保護者の皆さまが不安などを感じるがありましたら、どうか、遠慮なさらずに早めに学校にご連絡、ご相談ください。

小須戸小学校の教職員である私たちは、当校に在籍している全ての子どもの全人的成長のためにあります。そして、このコロナ時代を「自立」「協働」「創造」の力を育むチャンスと捉え、242名の子どもたちと共に、誰にとっても居場所がある、『誰もが行きたくなる学校づくり』を目指します。保護者の皆さま、地域の皆さま、一年間どうぞよろしくお願いいたします。